

エピソード14

～相手の気持ちになって～

50代 中学校 男性

10月初めからの3週間、大学生たちが教育実習に来ていました。私も実習生の授業を教室の後ろから、生徒の視線で観察することができました。

その日の授業後、そうじも済んでだれもいなかった教室で、私はもう一度生徒の席に座ってみました。

「この席でこの生徒は、私の書いた黒板の文字をノートに写し、私の話を聞いていたのだ。」そんなふうに想像してみると、自分の授業の様子もいろいろ思い返され、少し考えてしまいました。

私はよく生徒たちに、「相手の気持ちになって考えてごらん。」と言います。しかし、これは、私にとってもいまだにやり遂げられない宿題なのかもしれません。

「相手の気持ちになって」考える心情をカウンセリングマインドと言いますが、「相手の気持ちになる」ことは簡単ではありません。足を踏まれたときの痛みは踏まれてみなければわかりません。踏んだ人が想像しても実感はつかめないと思います。

ですから相手の気持ちをできるだけリアルに体験する方法として、いろいろな技法が編み出されてきました。例えばロールプレーとかサイコドラマとか言われる技法。催眠を使ってイメージで疑似体験をする方法など。しかし相手の気持ちを知るもっと簡単な方法があります。それは相手と同じ環境に身を置いてみるという方法です。生徒の席に座ってみる。それだけで気付かなかったことにたくさん気付きます。